



100歳社会総研からのお願い

藤村 峯一

100歳社会総研事務長

1. 100歳社会総研では一体何をするのか。何を研究するのかこれに答えたい。
2. 日本はかつて1980年代の高度成長期にNo1であった。実はこれからもNo.1が続く、それが高齢化率である。今後50年No1であり続ける。日本は高齢化社会という分野で最先端を走り続ける。DFはさらに日本の中で最先端である。
3. 従ってDF会員が「元気で長生き」ということと「100歳社会の研究」とはほぼ同意義である。「個人の生き甲斐追及」と「世間の幸せ」は一致させることができる。60歳までは己のためであったが、次の60歳「大還暦」までは世のため人のためということでありたい。社会貢献を最大にして 医療費最小のモデル実践は、如何に健康寿命を伸ばすかと言うことであり、個人の幸せ追及と世間の幸せと一致する。
4. 100歳社会総研が目指すものはDFが日本の高齢化のロールモデルとなることであり
5. このために①従来からのDFの活動の一層の充実を図る。②外部の100歳機関との交流と研究である。
6. お願い
DF会員サポートのアイデアをドンドン出して頂きたい。
100歳社会の研究に参加をして欲しい。
テーマ例
シニアの女性が輝く社会
終活、ターミナルケアについて
リカレント教育
80歳超会員が活躍できる場の創出
健康寿命を伸ばす方策
ポスト団塊高齢世代など
7. 100歳社会総研のメンバーを紹介する（敬称略アイウエオ順）
赤堀智行 江村奏一 嘉屋正道 木口利男 小林慎一郎 近藤勝重 中尾誠男
西村美奈子 平尾光司 保坂洋 牧野義司 真瀬宏司（所長） 宮崎恭男
山岡斉 藤村峯一（事務長）



（記 事務局 矢島健児）